

k) オキナワミナミヤンマ

N-4 地区の調査において、オキナワミナミヤンマは 。なお、評価図書作成時の現地調査では、N-4 地区において本種は確認されていない。

l) ヤンバルテナゴコガネ

N-4 地区の調査において、ヤンバルテナゴコガネは 。なお、評価図書作成時の現地調査では、N-4 地区において本種は確認されていない。

m) マングース、ノネコ

N-4 地区におけるマングースとノネコの確認状況を表 6.3.4-20 及び表 6.3.4-21 に示した。また、確認したノネコを図 6.3.4-18 に、確認地点を図 6.3.4-19 にそれぞれ示した。

マングースは、自動撮影機、トラップ、現地踏査では確認されなかった。ノネコは、平成 26 年 6、9、10、11 月、平成 27 年 1、2 月に自動撮影機で確認された。写真から成獣の模様を基に個体識別をしたところ、N-4 地区では 3 個体のノネコが判別された。



ノネコ①(シロの個体)



ノネコ②(グレーシロの個体)



ノネコ③(グレーの個体)

図 6.3.4-18 自動撮影機で確認されたノネコ

表 6.3.4-20 マングースとノネコの確認状況一覧(N-4 地区:自動撮影機 2ヶ所)

種名	区分	確認数												
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マングース	成獣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	幼獣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノネコ	成獣	0	0	0	1	0	0	1	2	3	0	2	2	0
	幼獣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注)同一個体の複数確認を含む(写真判別ではシロとグレーシロとグレーの計3個体を確認)。

表 6.3.4-21 マングースとノネコの確認状況一覧(N-4 地区)

種名	区分	確認数・地点数(フィールドサイン)			
		春季	夏季	秋季	冬季
マングース	成獣	0	0	0	0
	幼獣	0	0	0	0
	フィールドサイン(足跡・糞)	0	0	0	0
ノネコ	成獣	0	0	0	0
	幼獣	0	0	0	0
	フィールドサイン(足跡・糞)	0	0	0	0

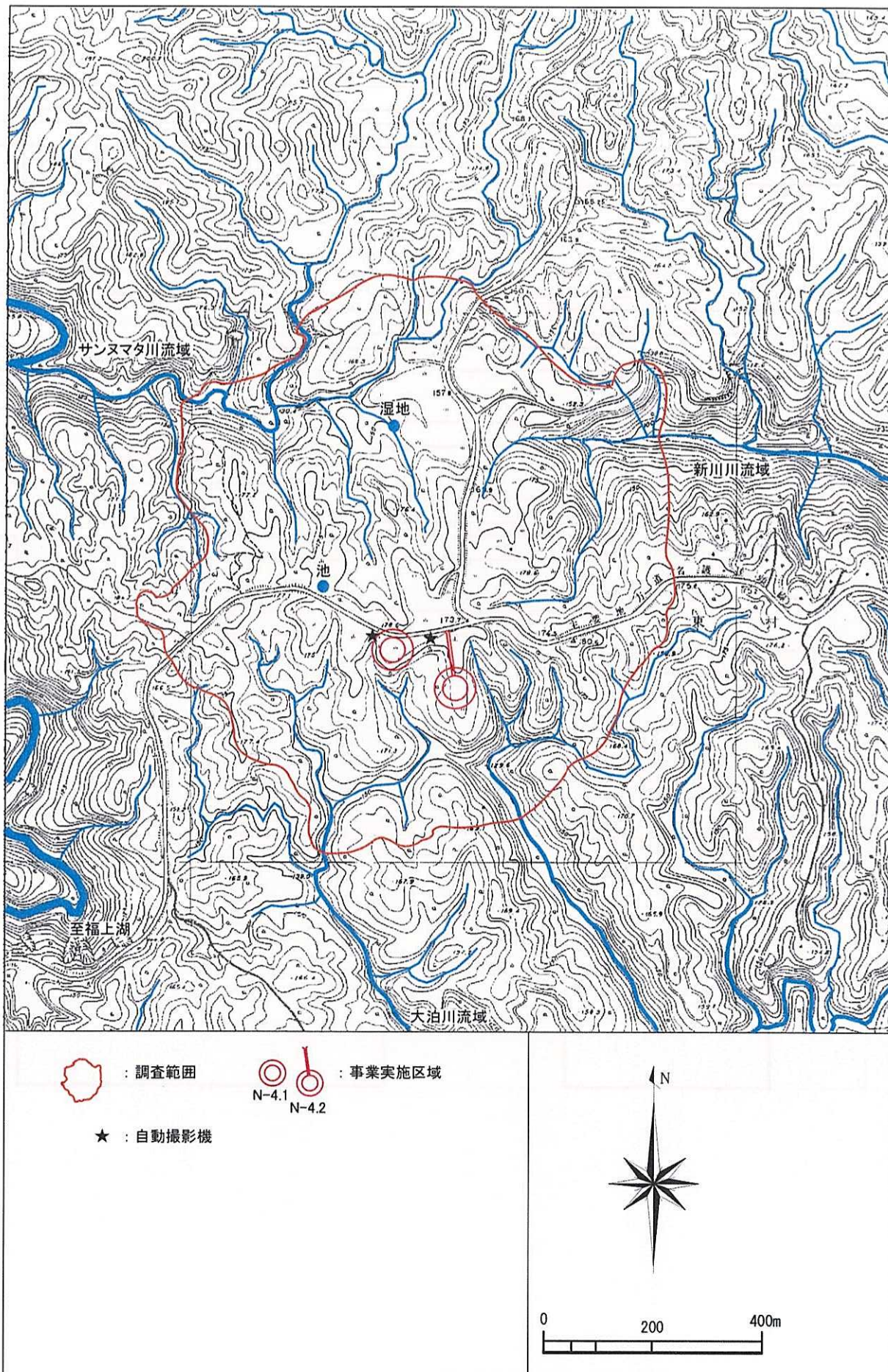


図 6.3.4-19 ノネコの確認位置 (N-4 地区)

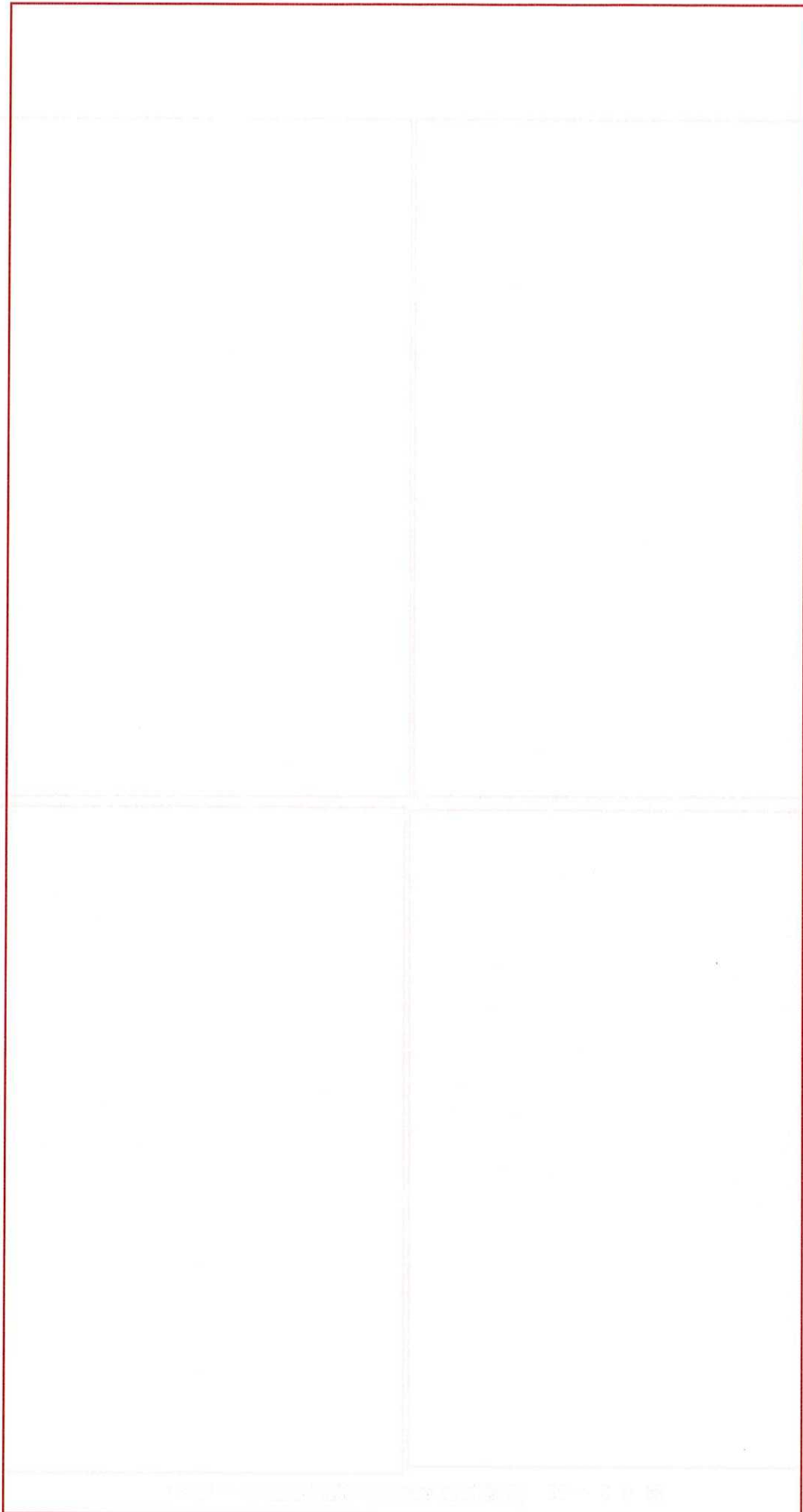
n) その他(淡水藻類の生育状況)

N-4 地区における重要な淡水藻類の確認状況を表 6.3.4-22、図 6.3.4-20 に示した。重要な淡水藻類は、紅藻植物門の []、[]、[]、[]、[] の [] が確認された。なお、[] は環境省、沖縄県の重要種に指定されていないが、[] は環境省の RDB に指定されていることから、ここでは重要な種として扱った。

確認地点数は、[] が最も多く、N-4 地区内の [] [] で各季 []、滝等の水の流れる岩盤上に生育していた。[] は [] でのみ春季を除いて [] 地点で [] され、淵や流れの緩やかな場所の岩盤、転石上に生育していた。[] [] は []、[] で各季 []、上流部の流れの緩やかな場所の転石上に生育していた。[] は [] [] でのみ夏季と秋季に []、上流部の殆ど流れの無い場所の転石上に生育していた。[] は [] のみで冬季に [] []、上流部の流れが殆ど無い場所の転石の他、流木や落ち葉等の基質上に生育していた。[] は [] でのみ冬季に []、上流部の流れの緩やかな場所の転石上に生育していた。

表 6.3.4-22 重要な淡水藻類の確認地点数(N-4 地区)

門	種名	環境省 (RL2012)	沖縄県 (2006)	確認地点数			
				春季	夏季	秋季	冬季
紅藻植物		NT	NT				
		NT	NT				
		CR+EN	-				
		CR+EN	-				
		CR+EN	-				
		-	-				



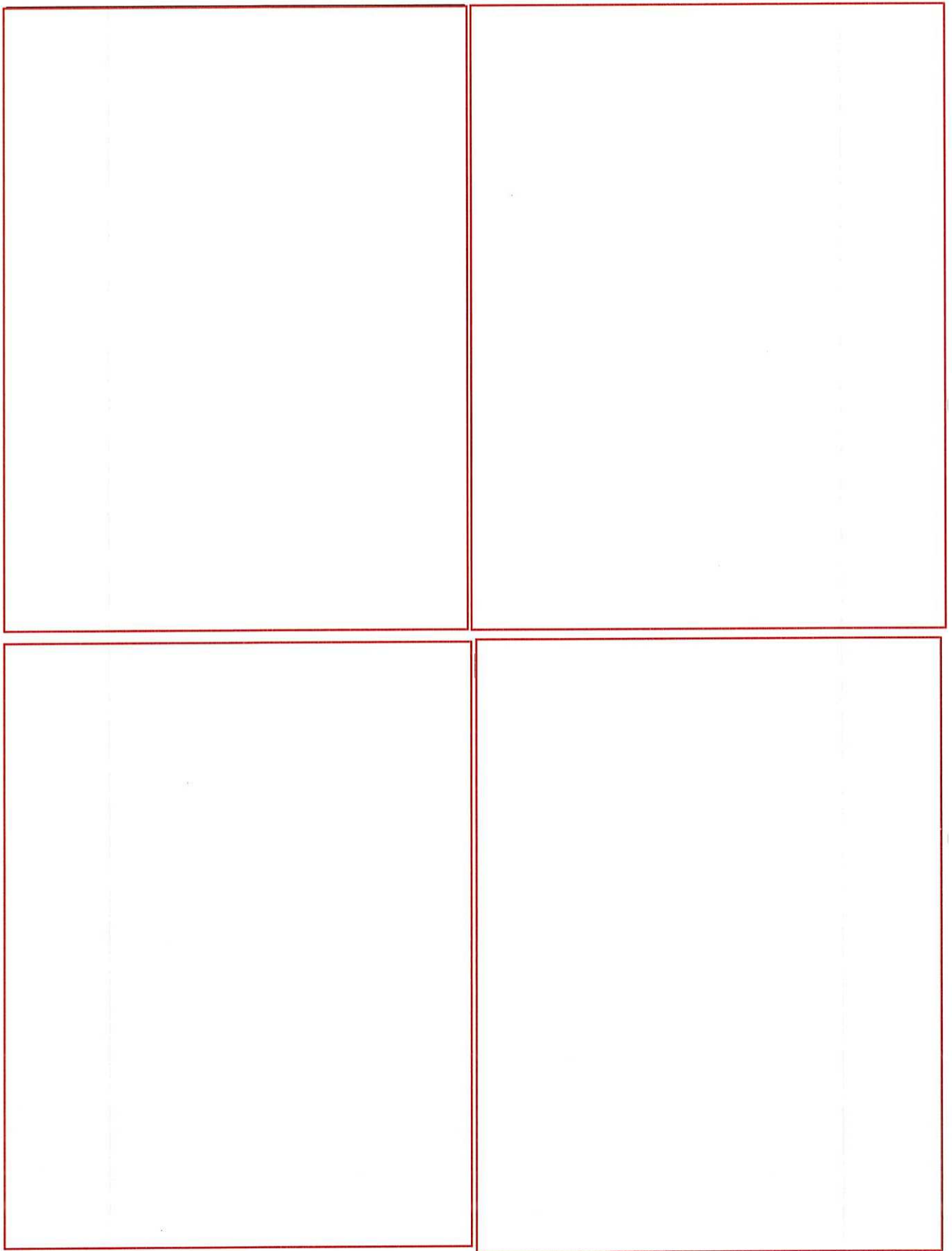


図 6.3.4-20 重要な淡水藻類の確認位置 (N-4 地区)

6.3.5 景観

1) 囲繞景観

(1) 調査期間

調査の実施期間を表 6.3.5-1 に示した。

表 6.3.5-1 調査期間一覧(N-4 地区)

区分	調査日
存在時	平成 26 年 5 月 16 日、21 日 (N-4.2 は芝張り前) 平成 26 年 8 月 28 日、29 日 平成 26 年 11 月 11 日、12 日 平成 27 年 2 月 15 日

(2) 調査方法

N-4 地区において、過年度に実施した囲繞景観の調査地点において写真撮影を行い、囲繞景観の状況を把握した。

(3) 調査地点

N-4 地区の景観調査は、評価図書における調査地点と同一地点において実施した。

(4) 調査結果

本調査地域においては、ほぼ全域が林内となっており、既存道路については徒歩や車両などでの通行が可能であることから、主要な眺望点は既存道路沿いに設定されている。

眺望状況の概況としては、主に既存道路景観区沿いにリュウキュウマツ景観区や裸地・路傍雑草景観区が分布する状況であり、谷部-大径木高木林、谷部-低木林については調査地点からの眺望はできない。

季節別の調査地点からの眺めの状況は図 6.3.5-1～図 6.3.5-4 に示すとおりである。N-4.1、N-4.2 完成後の平成 26 年度では、景観区に変化は生じておらず、眺めの状況に大きな変化はないと考えられる。

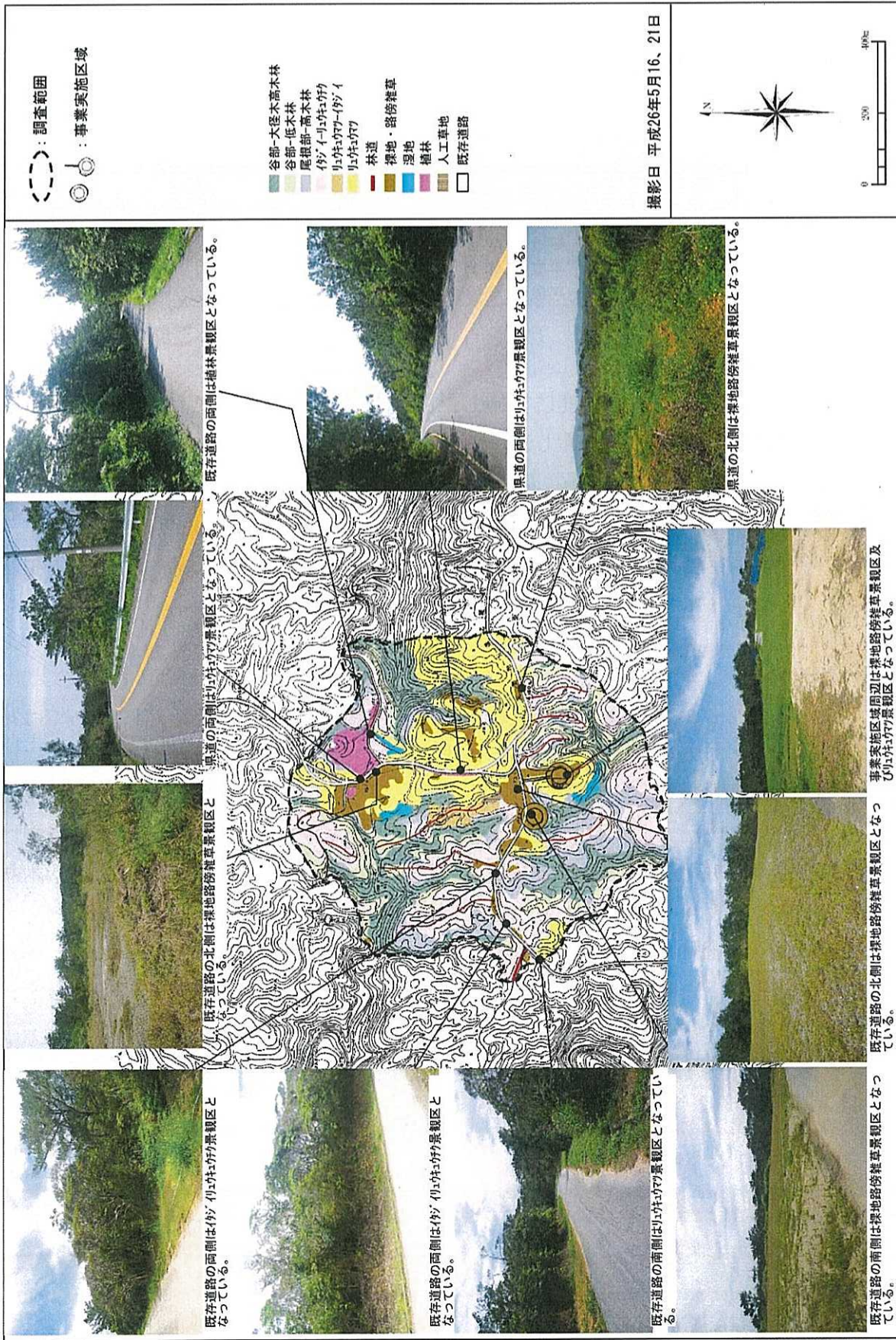


図 6.3.5-1 N-4 地区における眺めの状況 (平成 26 年度春季)

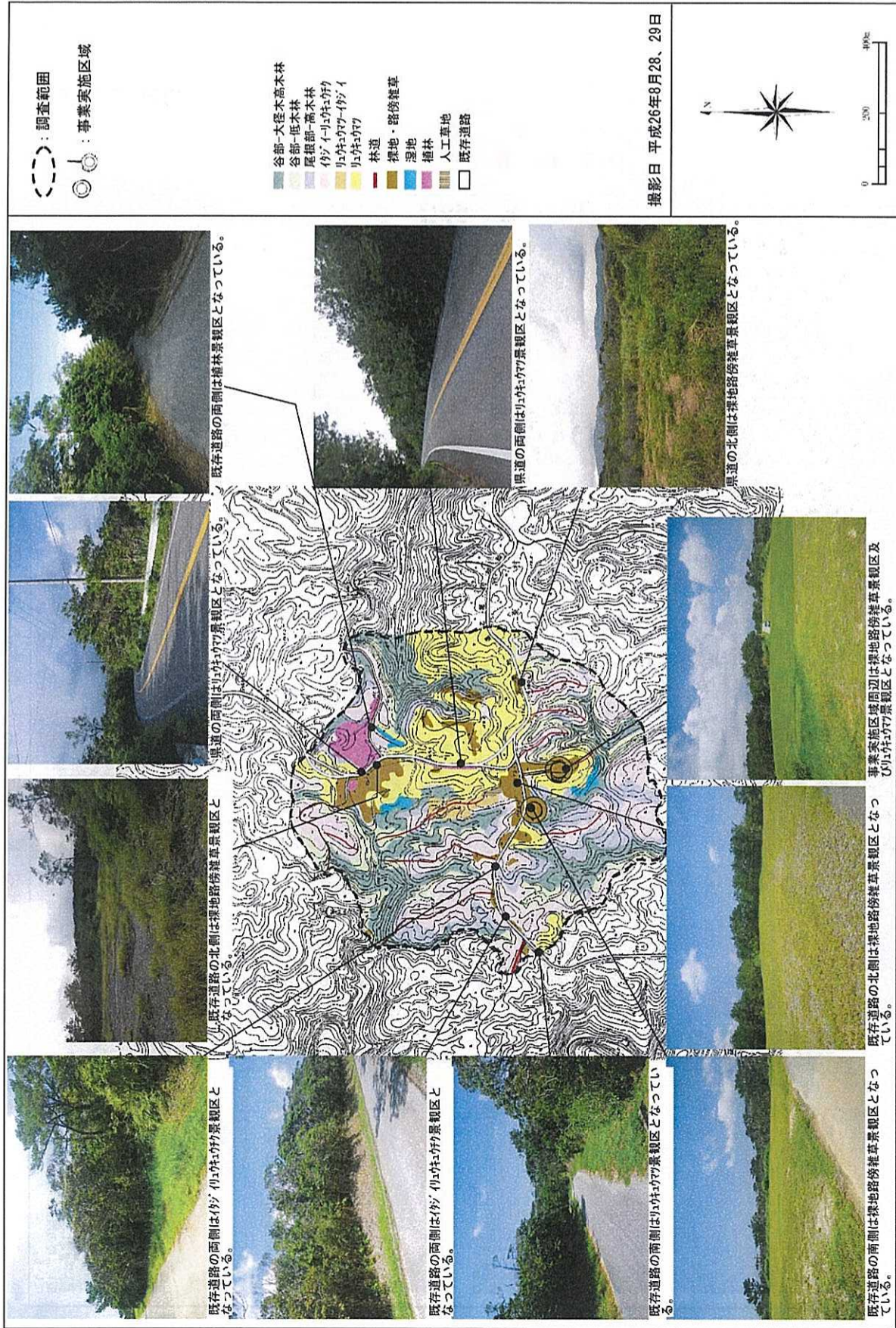


図 6.3.5-2 N-4 地区における眺めの状況 (平成 26 年度夏季)

第7章 事後調査の結果と環境影響評価の結果との比較検討の結果

7.1 工事前に係る調査(N-1(a)、(b))

7.1.1 植物

1) 流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布状況

(1) 流下経路における貴重な植物種

N-1の流下経路における貴重な植物種の確認状況を表7-1に示した。工事前の調査において、貴重な植物種を34種281地点で確認した。

また、評価図書では46種が確認されており、確認状況については、評価図書の調査後から今年度調査までの期間での自然降雨による流出や新規個体の発芽等による自然的な消長によると考えられる。

なお、評価図書においては、流下経路における貴重な植物種への影響の程度は小さいと予測しており、次年度以降の工事中の調査結果を重ねて検討することとする。